

小単元名 p.66～69	地図帳を開こう	小単元 の目標	都道府県の名称や形，地図に示されている地名を，地図帳を使って調べたり，地図記号や等高線の意味を理解したりすることができるようにする。
-----------------	---------	------------	--

p.66
◎ 地図帳で遊ぼう。
・「県名おもしろクイズ」から，地図帳や都道府県名に興味・関心を持たせる。
・「都道府県シルエットクイズ」から，都道府県の形に興味・関心を持たせる。

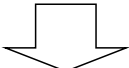
つ
か
む

都道府県にはいろいろな名前や形があっておもしろいね。

↓

地図帳を使って，もっといろいろなことを調べたいな。

学習問題
地図帳のいろいろな使い方を調べよう。



調
べ
る

p.67
○ 仙台市をさがそう。
・ 索引の番号や記号の意味を知り，地名を探す。
○ さく引にのっている地名でゲームをしよう。
・ 索引を使って地名を探すゲームを行い，索引の使い方に慣れる。
○ 地図帳のいろいろな使い方を調べよう。
・ 索引以外から調べられるクイズを行い，地図帳のいろいろな使い方を知る。

p.68
○ 地図記号ビンゴで遊ぼう。
・ 地図記号をビンゴカードに書いたり，地図記号を読んだりする活動を通して，地図記号の意味を理解させる。
・ 地図帳に示されている地図記号を読み取らせ，地図記号から土地利用の様子が分かることを理解させる。

ま
と
め
る

p.69
○ 等高線について学ぼう。
・ 等高線，断面図の色分けを行い，土地の高さや斜面の様子を表していることを理解させる。
※ 地図帳に慣れ親しむ活動を継続的にを行い，地図帳の使い方を理解させる。
例) ・ 地名探し
・ 都道府県を紹介するスピーチ
・ 旅行などで行った場所を白地図に示す

※宮城県の位置について，具体的に周囲の県名や所属する地方名で表現できるようにさせる。また，場所については，白地図を活用して捉えさせるようにする。
・「宮城県は，東北地方にあり，北は岩手県，秋田県，西は山形県，南は福島県に接しています。東は太平洋に面しています。」

<押さえること>
地図帳の使い方を理解しているか。

教科書の活用

○ 地図帳の使い方に慣れる活動を継続しながら，各小単元において，教科書や副読本に示されている，地図に関する内容を取り上げて確認する。「まなび方コーナー」には，地図帳の活用や等高線，地勢図，土地利用図の読み取りなどが紹介されている。

p.66,67	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	1 地図帳で遊ぼう 2 仙台をさがそう 3 さく引にのっている地名でゲームをしよう 4 地図帳のいろいろな使い方を調べよう
---------	------	---------	------	---

【小単元の指導に当たって】

本小単元は、4年生の学習に必要な地図の見方を、クイズやゲームを通して身に付けさせる内容となっている。ここでは、地図帳の使い方についても取り上げ、社会科の学習に役立てることができるようにすることがねらいである。指導に当たっては、3年生で学習したことを想起させながら、基礎・基本を押さえさせたい。

クイズ「県名おもしろクイズ」
このほかにも、動物の名が入った県や海水浴ができない県など、児童が興味を持てる課題をクイズとして取り上げるとよい。

クイズ「都道府県シルエットクイズ」
三つのヒントを準備して県名を当てさせる方法もある（シルエットなしでもよい）。



本文「仙台市をさがそう」
地図帳索引の引き方を参考に指導する。その後、仙台を探す活動を行う。

本文「さく引にのっている地名でゲームをしよう」
慣れてきたら、世界地図なども活用させたい。また、自主学習の課題に取り入れることも考えられる。

本文「地図帳のいろいろな使い方を調べよう」
地図帳にはたくさんの情報があることを知らせ、ゲーム等を紹介し、楽しく学ばせる。

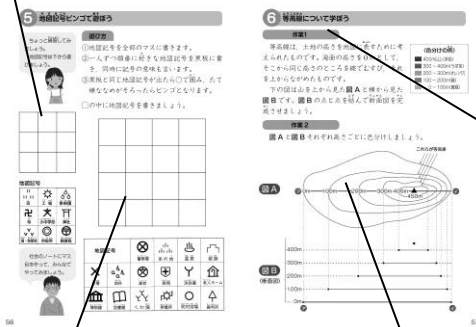
p.68,69	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	5 地図記号ビンゴで遊ぼう 6 等高線について学ぼう
---------	------	---------	------	-------------------------------

ビンゴ「9マス編」
ゲームに慣れさせるために、最初に行うとよい。
地図記号は下のマスから選ばれる。

※ビンゴ「9マス編」には、基本的な地図記号が集めてある。このページを印刷するなどして、何度か取り組ませた上で、「16マス編」に取り組ませると効果的である。

ビンゴ「16マス編」
地図記号の一覧には博物館や図書館、老人ホームなどの記号も取り入れている。授業の中で触れるとよい。

本文「地図記号ビンゴ」で遊ぼう
遊び方を全員で確認してから行わせる。慣れてきたら、朝自習や休み時間にも取り組ませるとよい。



作業1
最初に、図Bに高さごとに色分けする。
次に図Aを色分けすることで、地図を立体的にイメージできるようにする。

作業2
図Bを基に傾斜が急な方はどちらかを確認させる。
そこから等高線との間隔が広いほど傾斜が緩やかで、狭いほど傾斜が急であることを理解させる。